



(玉村文郎教授近影)

献呈の辞

玉村文郎先生が、二〇〇一年三月末日をもって定年退職される。先生は一九七四年に同志社大学に着任されて以来、国語学・言語学の分野で永く教鞭を執ってこられ、四半世紀の間に同志社大学で多くの学生の指導に当たってこられた。また、学外においても、日本語教育学会の重鎮として、多くの研究者を導いてこられた。同志社大学国文学会では、先生のご退職にあたり、その功績を讃えるとともに感謝の意を込め、『同志社国文学』第五十四号を先生の退職記念号として刊行させていただくことになった。

先生は、多くの知識によって裏打ちされた学問研究や、その温かい人柄によって、その元に集う多くの門下生を育ててこられたが、その中には、日本人の日本語研究者・日本語教員のみならず、中国・韓国などを始めとする海外で日本語教育に携わっている留学生も多く、また実地に海外の大学にも赴いて教鞭を執られ、多くの門下生を育ててこられた。先生のお陰で、国文学専攻の中で日本語教員の養成という分野が創出され、同志社大学の国文学専攻の教学上の特色として知られるようになったことは特筆すべき事である。また、学内においては留学生関連の授業について永く学内の教育体制を支えてこられるなど、煩雑な業務に至るまで黙々とこなされたことは驚嘆に値することである。このような学部における授業はもとより、九九年度から発足した留学生別科の開設に当たっても先生のご尽力があり、これらの授業の担当者も玉村先生の教えを受けた人たちが多くを占めている。このような先生の献身的なご努力によって培ってこられた同志社大学の研究や教学の伝統を、後進のものは今後さらに発展させていかねばならない。

先生は、常日頃ご自宅から自転車通学なさっている事で知られているが、その元気なお姿が見られなくなることは寂しい限りである。ご退職後も大所高所からお導きいただければと思う。今後ますます御壮健で御研鑽を重ねられることを祈りたい。

藤井 俊博